



# AKITA BANK REPORT 2025

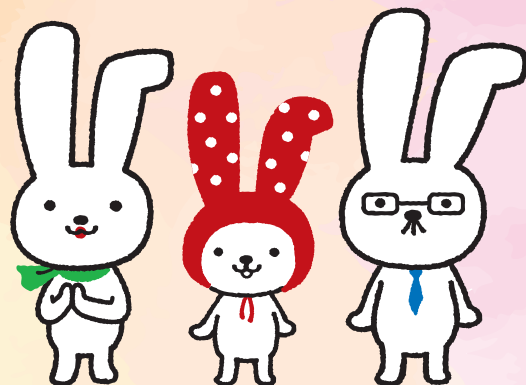
秋田銀行ミニディスクロージャー誌

---

2025年9月期 | 営業のご報告

---

2025年4月1日から2025年9月30日まで





<あきぎん>の概要（2025年9月30日現在）

名称	株式会社 秋田銀行 The Akita Bank, Ltd.
本店所在地	秋田県秋田市山王三丁目2番1号
創業	明治12年(1879年)1月
預金・譲渡性預金	3兆1,976億円
貸出金	2兆1,102億円
資本金	141億円
発行済株式数	18,093千株
自己資本比率	11.41%(国内基準)
長期格付	A+(JCR)
従業員数	1,214名
店舗数	本支店・出張所98か店
現金自動設備(ATM)	225か所 (店舗内74、店舗外出張所151)
上場証券取引所	東京証券取引所(証券コード8343)

秋田銀行グループの経営理念体系

経営理念

**地域共栄** ～地域とともに歩み、地域の発展とともに栄える～

秋田銀行グループVISION

**価値をつくる。未来へつなぐ。**

地域の課題を解決し、お客さまのニーズに応える  
質の高い金融・非金融サービスの提供を通じて、  
将来にわたる豊かな地域の実現にチャレンジし続けます。

**「あきぎんVALUE」**

秋田銀行グループが大切にする価値観

信頼と信用

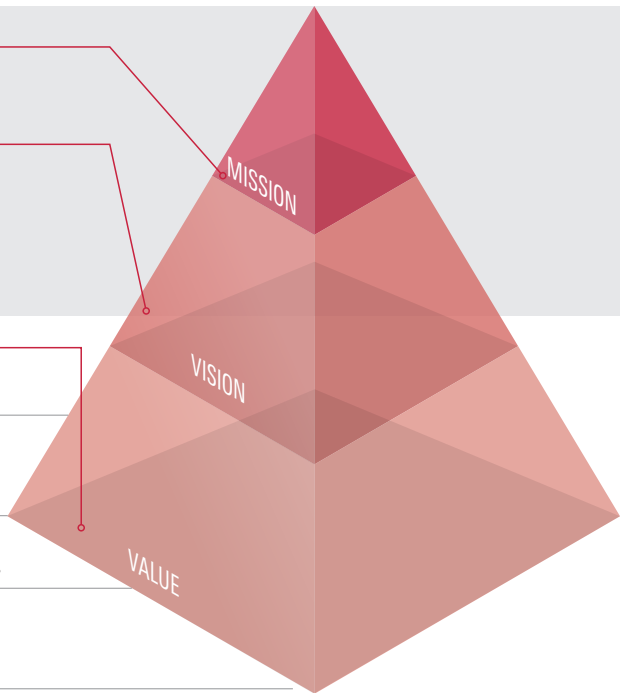
常に誠実で思いやりの心をもった行動を通じて、  
地域社会やお客さま、働く仲間と将来にわたる  
信頼と信用を築きます。

相互尊重と切磋琢磨

多様な仲間が集い、お互いを尊重し合いながら活躍し、  
切磋琢磨することで組織と個人がともに成長を続けます。

失敗を恐れず挑戦する

地域の未来のために、一人ひとりの幸せの実現のために。  
勇気と情熱をもって、より良く変える、困難に立ち向かう。  
ひたむきな努力、一步一步を積み重ねます。



皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、当行に対するご理解を一層深めていただくため、「ミニディスクロージャー

誌 AKITA BANK REPORT」を作成いたしました。本誌では、2025年9月期の業績、当行の経営方針、地域やお客さま向けの取組みなどについてご紹介しております。ご高覧のうえ、ご参考にしていただければ幸いに存じます。

当行グループでは、地域とお客さま、そして当行グループの成長を実現すべく、2030年を展望する秋田銀行グループVISION『価値をつくる。未来へつなぐ。』を定め、この目指す姿へ到達するための第2フェーズとして、2025年度からの3年間を計画期間とする中期経営計画に取り組んでおります。この計画では、2022年度～2024年度の第1フェーズで着実に強化してきた経営基盤を礎に、変化と不確実に対応していく皆さまにとっての真のパートナーとしての地位を確かなものとしていくことに加え、秋田県にさまざまな事業や人の往来、投資、消費を呼び込むべく、「価値共創ビジネスモデルの確立」、「地域資源の錬磨と高付加価値化」、「人的資本の充実」の3つを基本方針として掲げ、取組みを進めております。

このうち、「地域資源の錬磨と高付加価値化」においては、当行のグループ会社である地域商社「詩の国秋田株式会社」が、日本三大地鶏の一つである秋田県産「比内地鶏」から抽出したスープエキスを台湾に輸出し、台湾企業と連携のうえ、新商品の共同開発を行うなど、国内外において県産品の取扱い規模を拡大しております。また、2025年9月には、秋田県の文化、風土などの地域資源を取材、発信するWebメディア(公式noteアカウント)を開設いたしました。自然や伝統的な祭り、工芸、食文化など、そのルーツや携わる方々の想いなどを含めて深掘りし、新たな価値として練り上げ、多くの方々にその価値を発見していただき、実際に触れていただくことを目指しております。

引き続き中期経営計画に基づく諸施策を着実に進め、地域とお客さま、そして当行グループの成長に取り組んでまいります。お客さま、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーの皆さまには、変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取

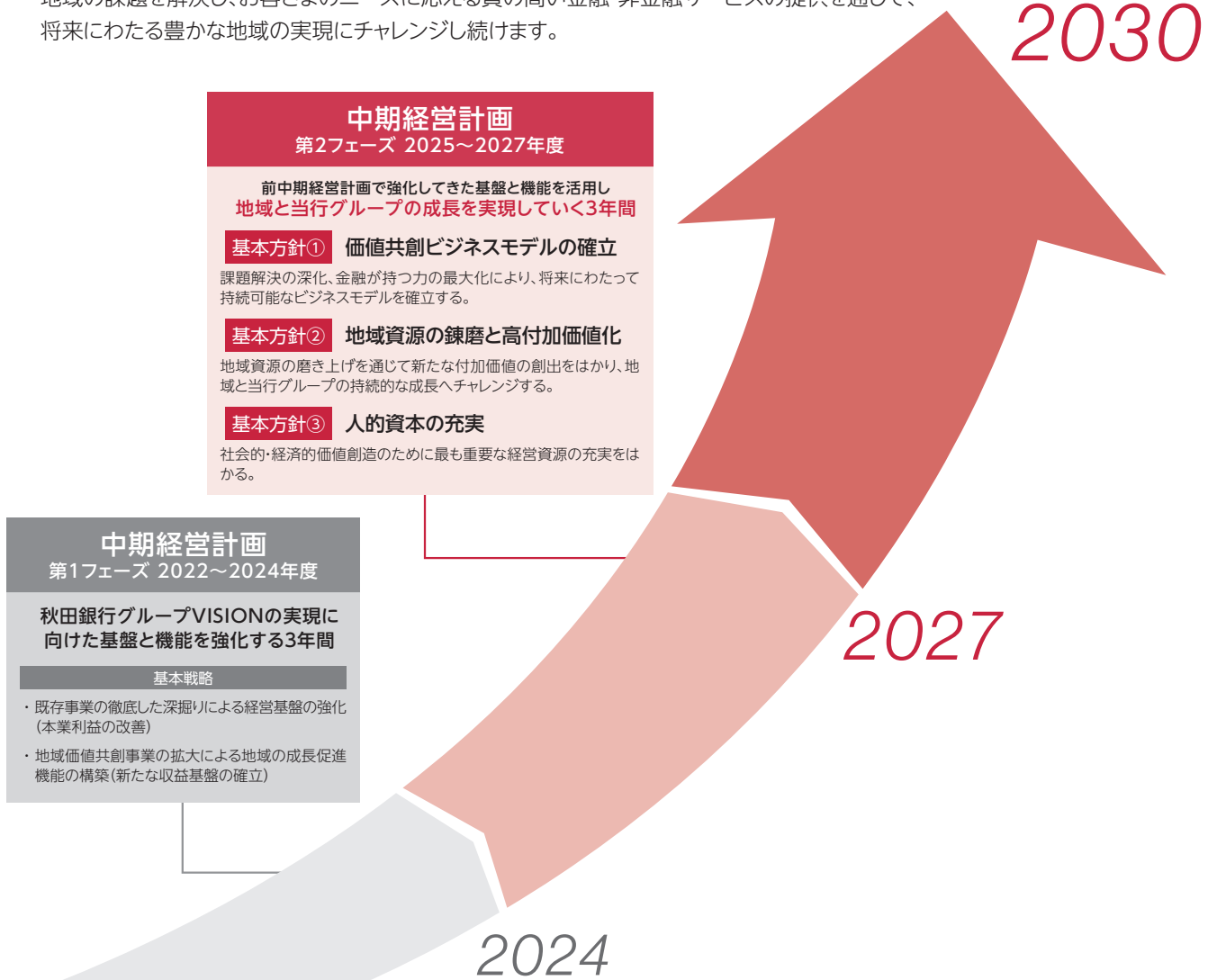
**芦田 晃輔**

Contents	<あきぎん>の概要	01	地域の持続的成長	05	財務ハイライト	09-12
	トップメッセージ	02	人生100年時代の暮らしのサポート	06	株式インフォメーション	13
	秋田銀行グループVISIONの 目指す姿	03-04	豊かな自然環境の維持と継承	07	店舗ネットワーク	14
			人的資本経営の実践	08		



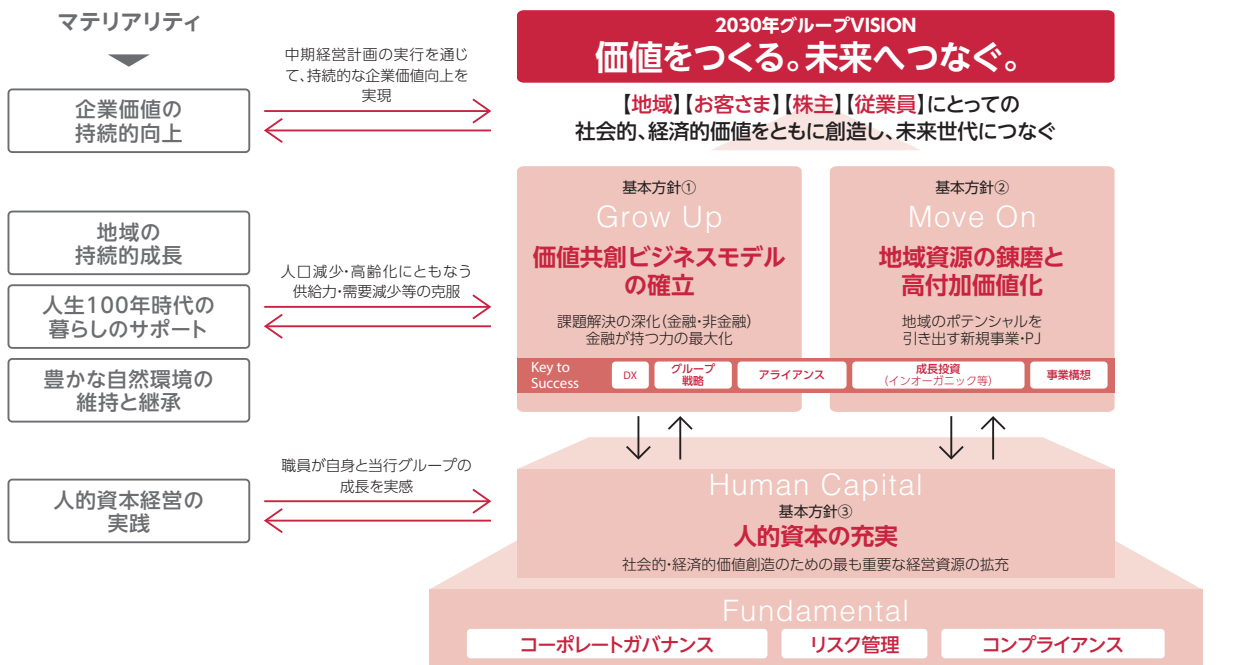
# 価値をつくる。未来へつなぐ。

地域の課題を解決し、お客さまのニーズに応える質の高い金融・非金融サービスの提供を通じて、将来にわたる豊かな地域の実現にチャレンジし続けます。



## 中期経営計画の概要とマテリアリティ（重要経営課題）

中期経営計画における3つの基本方針に基づく取組みを通じてマテリアリティに対応し、ステークホルダーとともに持続的成長を実現します。



## 中期経営計画最終年度に目標とする経営指標と2024年度実績

項目	2024年度実績	2027年度目標
当期純利益（連結）	56億円	80億円以上
ROE（連結）	3.44%	4.5%以上
OHR（単体・コア業務粗利益ベース）	64.33%	65%未満
自己資本比率（連結）	11.97%	11%程度
お客さまサービス等利益	19億円	40億円以上
地域価値共創事業収益	3.2億円	7億円以上
CO2排出量削減率（2013年度比）	61.3%削減	80%削減
従業員エンゲージメントスコア	52.6点	58点以上
女性管理職比率	10.4%	18%以上



## 事業理解を起点としたコンサルティング活動

お客さまの事業に対する深い理解を起点としたコンサルティング活動に取り組んでいます。過去～現在に至るまでのお客さまの情報を「顧客カード」に蓄積し、事業の将来展望や、経営者の想いを共有し、その実現に向けた経営課題を記載していく「ビジネスパートナーシート」を作成することにより、お客さまの理解を進めています。

また、それらの情報を基に「営業店・本部ミーティング」を開催し、当行グループのノウハウを結集したコンサルティングを展開しています。

## ファンド運営を通じた地域企業の成長支援

投資専門子会社「あきぎんキャピタルパートナーズ」が運営する「あきぎんNEXTファンド」や「秋田市『未来応援』2号ファンド」を通じて、地域企業の成長を後押ししています。

2025年度は、秋田大学発のスタートアップ企業や、将来的に洋上風力発電向けの用船事業への参入を目指す企業など、9月末までに6件の投資を実行いたしました。

引き続きファンドを通じた柔軟な資金供給や経営支援を通じて、地域企業の成長や経営課題解決を後押ししてまいります。

## 秋田のブランド価値向上に向けて

地域商社「詩の国秋田株式会社」では、秋田県産品の販路拡大やプロモーション強化などを通じて、地域のブランド価値向上をはかっています。

2025年7月に運航が開始されたクルーズ客船「飛鳥Ⅲ」における「A S U K A Ⅲ m e e t s 47都道府県」プロジェクトに参画し、「森と木の国秋田」が贈る、船上の“wood spot”をテーマに、木工品および雑貨を中心に客室「秋田県部屋」の空間をプロデュースいたしました。

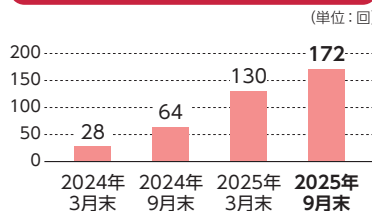
また、9月には、秋田県産比内地鶏から抽出したスープエキスを台湾に輸出し、台湾企業と連携のうえ、新商品の共同開発を行いました。今後も地域の魅力を国内外に向けて発信し、地域経済の活性化に貢献してまいります。

## 地域資源を発信するWebメディアの開設

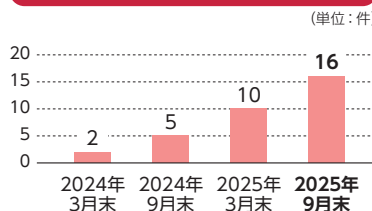
2025年9月、秋田県の文化、風土などの地域資源を取材し、発信するWebメディア（公式noteアカウント）を新たに開設いたしました。身近にある自然や古くから伝わる祭り、伝統工芸、食文化など、秋田県にある多くの魅力ある地域資源のルーツや、携わる方々の想いを広く伝えとともに、新たな価値創出の起点として掘り下げ、地域のさらなる成長と未来への継承を目指しています。



### 営業店・本部ミーティング累計実施回数



### 累計投資実行件数



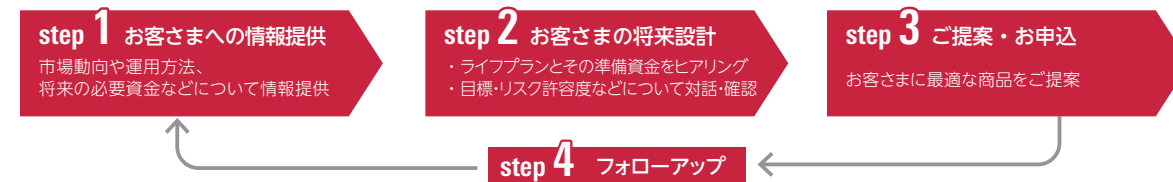
比内地鶏スープを使用したラーメン



秋田県の文化、風土などの地域資源を取材、発信するWebメディア

## お客さま本位のライフコンサルティングプロセス

多様化するお客さまのニーズへ適切にお応えするため、資産形成や様々なリスクへの備えなど、お客さまのご意向をしっかりと理解し将来に対する想いを共有するプロセスや、サービスご提供後のフォローアップを重視した取り組みを行っています。



## お客さまへの情報提供機会の拡充

資産形成や運用に関する世代・テーマ別のセミナーなど、お客さまへの情報提供機会を拡充しています。2025年5～7月には、年齢を重ねても誰もが“生き生き”と元気に活躍する「長生き」を目指す「長生きプロジェクト」の一環として、「お金の長生き～人生100年時代を豊かに生きる～」と題し、高齢者の皆さまに向けたセミナーを開催いたしました。また、お取引先企業の従業員の皆さまに向けて、ライフプランの実現に向けた資産形成の大切さや手段を学んでいただくマネー講座にも取り組んでおり、2025年度上半期は計63回開催いたしました。



高齢者の皆さまに向けたセミナー

## 若い世代への金融知識の提供

将来を担う子どもたちに向けて、金融経済教育の取り組みを行っています。小学生や中学生の職場見学を随時受け入れているほか、夏休み期間中には、小学生の親子向けに、旧秋田銀行本店である赤れんが郷土館の探検や、クイズ・ゲームを通じて「お金の役割」や「銀行の仕事」などについて楽しく学んでもらうイベント「親子でチャレンジ！あきぎんワクワク探検隊」を開催いたしました。毎年継続的に開催しており、これまでに延べ433名の小学生に参加いただいています。



お金の役割や使い方を学ぶボードゲーム

## 金融犯罪防止に向けた取り組み

多発する特殊詐欺等被害の防止を目的に、当行所蔵の絵画を使用した啓発ポスターを制作し、2025年8月より全営業店のA T Mコーナーや店内に掲示しています。ポスターには秋田駅前の千秋公園の蓮、鷺や鴨、虫、蛙などの動物が描かれており、「鷺（サギ）」や「鴨（カモ）」などの特殊詐欺を連想させる動物を通じ、被害を防止したいという作者の思いが込められています。今後もお客さまの大切な資産を安心してお預けいただけるよう、特殊詐欺等の被害防止に努めてまいります。



秋田県で活躍する画家・小山内愛美氏  
が描いた絵画を用いた啓発ポスター

## 地域企業の脱炭素化に向けた取り組み

お客さまの脱炭素経営を一層後押しするため、2025年9月より、株式会社NTTデータおよび株式会社NTT DXパートナーと協業し、温室効果ガス排出量算定プラットフォーム「C-Turtle®」の投融資先への無償提供を開始いたしました。

また、2025年9月には株式会社NTT DXパートナーと、10月にはリコージャパン株式会社との業務提携を開始し、より幅広い脱炭素ソリューションメニューを提供しています。引き続き、脱炭素経営に必要な「知る」「測る」「減らす」のすべてのフェーズでお客さまのサポートを進めてまいります。



株式会社NTTデータおよび  
株式会社NTT DXパートナーとの協業開始の記者発表

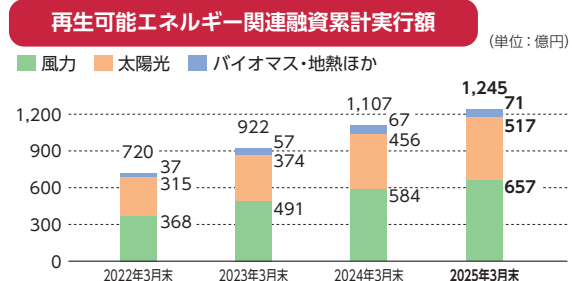
## 「〈あきぎん〉グリーン定期預金」の取扱い開始

2025年9月より「〈あきぎん〉グリーン定期預金」の取扱いを開始いたしました。本商品は、お客さまに脱炭素社会の実現に向けた取り組み機会をご提供させていただく預金商品であり、お客さまからお預入れいただいたご預金は、環境改善事業（再生可能エネルギー関連融資）に限定して運用されます。当行グループでは、引き続き地域の脱炭素化に向け、サービスやソリューションの拡充に努めてまいります。



## 再生可能エネルギー分野への取り組み

秋田県は全国有数の再生可能エネルギーの供給ポテンシャルを有し、地域の新たな産業として大きな期待を集めています。2025年3月末の再生可能エネルギー関連融資実行額は1,200億円を超えました。再生可能エネルギー事業が地域の新たな産業として定着するよう、引き続きファイナンスを中心に各プロジェクトへ積極的に関与するとともに、洋上風力関連産業への地域企業の参入支援など、幅広いサポートに取り組んでまいります。



世界的な洋上風力発電総合イベント  
「GLOBAL OFFSHORE WIND SUMMIT JAPAN 2025」  
におけるパネルディスカッションに三浦専務が登壇

## D E I（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）への取り組み

多様な人材が活躍できる職場環境を目指し、D E Iへの取り組みを進めています。2025年度は、女性職員の活躍を後押しする取り組みとして、岩手銀行とのアライアンスのネットワークを活用し、両行の垣根を越えて女性職員同士が1対1で面談する「クロスメンタリング」を実施しています。キャリア形成に関する意見交換により、視点や学びを広げ、新たな成長につなげる機会としています。



岩手銀行とのクロスメンタリング

## 1st Birthday休暇の新設

2025年10月、子育て支援および働きがいの向上を目的として、子の満1歳の誕生日に利用できる「1st Birthday休暇」を新設いたしました。子の初めての誕生日という記念すべき日を家族でゆっくりと過ごせるよう、満1歳の誕生日前日が最終日となる育児休業に続けて誕生日まで休むことが可能となる本休暇を新設し、子育て世代の職員のエンゲージメント向上をはかっています。

## お客さまのDXを支援する人材の育成

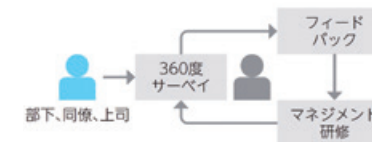
2024年度より新卒採用に「DX／IT人材コース」を新設し、DX戦略の中核を担う専門人材の育成に力を入れています。2024年度は3名、2025年度は2名の新卒者を採用し、DX関連部署に配属することで、実践的なスキルを早期に身につけられる環境を整えています。さらに、DXに特化したアセスメントやeラーニングのカリキュラムを導入し、お客さまに対しDX・デジタル化に関する情報提供や提案を行うことができる人材の育成に努めています。



DXやマネジメントの分野などを幅広く学ぶ  
eラーニングカリキュラム  
(提供：株式会社エクサウィザーズ)

## 360度サーベイの導入

2025年6月、マネジメントにあたる職員の成長を促す取り組みとして、「360度サーベイ」を導入いたしました。上司だけではなく部下や同僚からの評価を実施し、多様な視点からフィードバックを受けることで、自己認識と他者認識とのギャップを把握し、行動の振り返りや部署内のコミュニケーション改善、マネジメント能力の向上につなげることを目的としています。



## 収益の状況

コア業務純益<sup>(※)</sup>は、貸出金利息、有価証券利息の増加により資金利益が増加したことから、前年同期比20億円増加の**75億円**となりました。

国債等債券損益および株式等関係損益は悪化したものの、与信関係費用の減少に加えてコア業務純益が増加したことから、経常利益は17億円増加の**58億円**となり、中間純利益は17億円増加の**41億円**となりました。

### 用語解説

#### ※「コア業務純益」

銀行本来の業務(預金、貸出、為替、有価証券など)から得られた利益である「業務純益」から、期ごとに特殊な要因で大きく変動する「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたもので、「銀行の基本的な利益」を示します。

## 自己資本比率<sup>(※)</sup>の状況

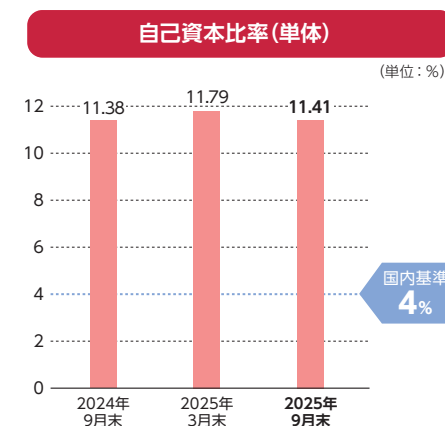
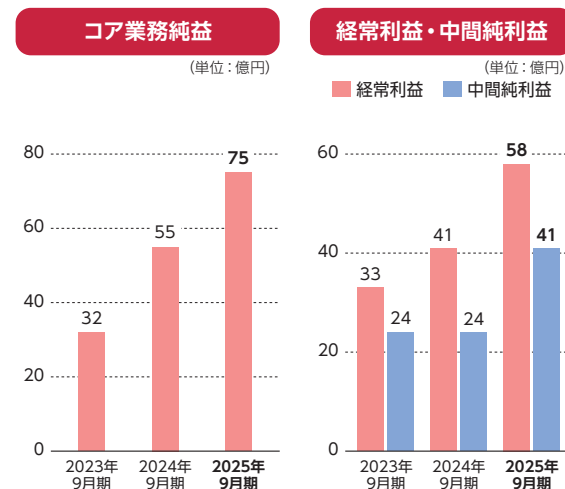
2025年9月末の自己資本比率は、分子である自己資本は利益の積上げを主因に増加しましたが、分母であるリスク・アセットも貸出金の増加を主因に増加したことから、前期末比0.38ポイント低下し**11.41%**となりました。

引き続き国内基準行に求められる4%を大きく上回る水準を維持しております。

### 用語解説

#### ※「自己資本比率」

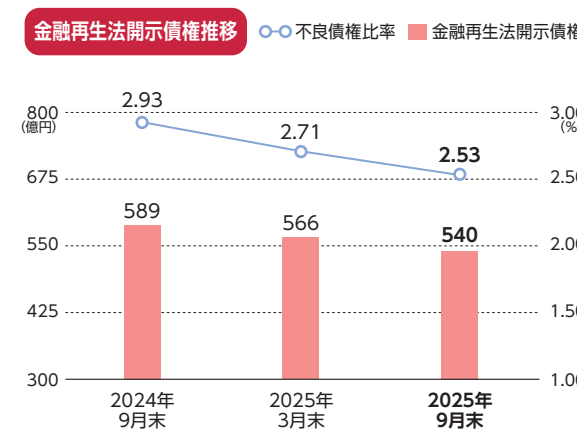
貸出金などの資産(リスク・アセット)に対する自己資本の割合で、銀行の健全性を示す指標のひとつです。海外に営業拠点を有する銀行は国際統一基準で8%以上、海外に営業拠点を持たない銀行(当行)は国内基準で4%以上を維持することが求められています。



## 不良債権の状況

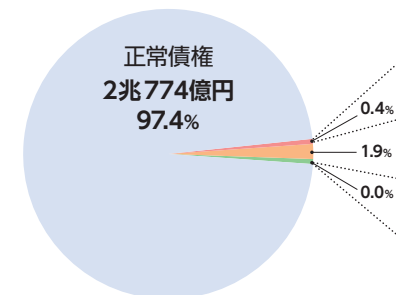
2025年9月末の不良債権(金融再生法開示債権ベース)は、前期末比26億円減少し、**540億円**となりました。

この不良債権が将来回収不能となった場合の備えである保全額(貸倒引当金、担保・保証)は466億円、保全率は86.37%と高く、貸出等資産の健全性維持に努めております。



## 金融再生法開示債権の状況

(2025年9月末現在)



### 金融再生法開示債権に対する保全の状況

(単位: 億円)

区 分	残高 (A)	保全 (B) + (C) = (D)	保全		保全率 (%)
			担保・保証等(B)	貸倒引当金(C)	
破産更生債権及び これらに準ずる債権(※1)	105	105	26	80	100.00
危険債権(※2)	415	359	319	39	86.31
要管理債権(※3)	19	2	1	1	11.18
合 計	540	466	346	120	86.37

(注) 1 単位未満四捨五入  
2 保全率 = (D) ÷ (A) × 100

### 用語解説

#### ※1「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申し立て等の事由により、経営破綻に陥っているお取引先に対する債権およびこれらに準ずる債権です。

#### ※2「危険債権」

お取引先の財政状態および経営成績が悪化し、契約にしがった債権の元本回収および利息の受取りができない可能性の高い債権です。

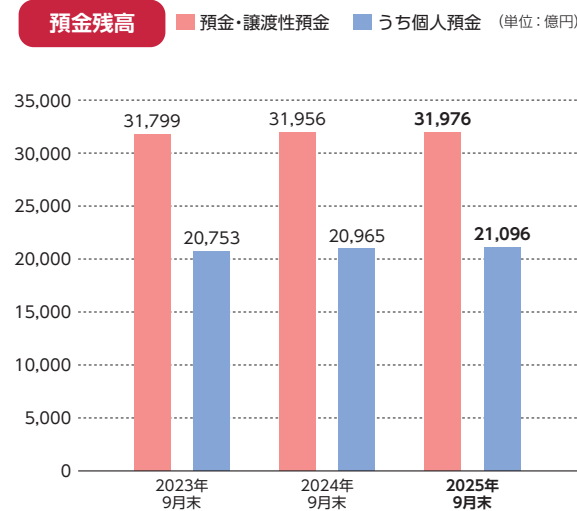
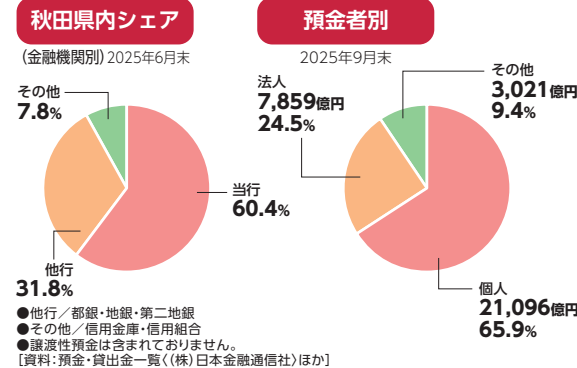
#### ※3「要管理債権」

三月以上延滞債権および貸出条件緩和債権(金利の減免や利息支払い、元本の返済を猶予した貸出金など)です。



## 預金の状況

公金預金は減少したものの個人預金や法人預金の増加により、前年同期末比20億円増加し、**3兆1,976億円**となりました。

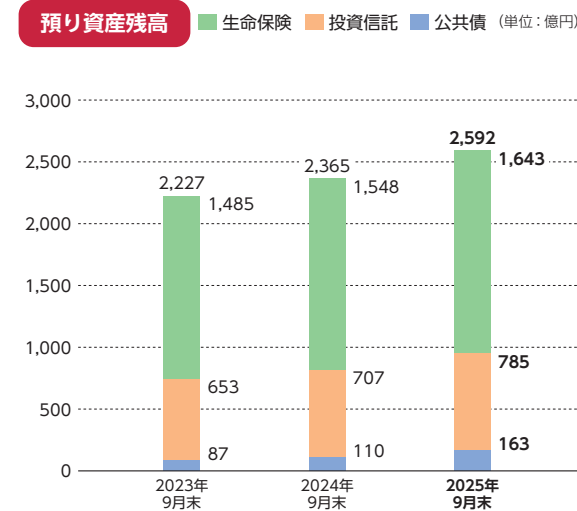


## 預り資産(※)の状況

投資信託、生命保険および公共債の増加により、前年同期末比227億円増加し、**2,592億円**となりました。

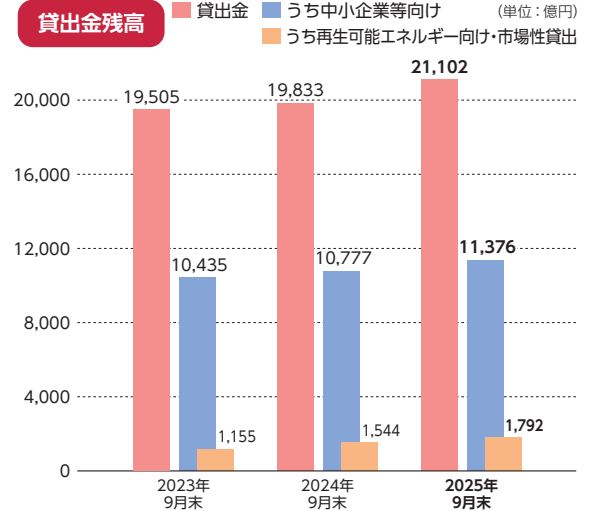
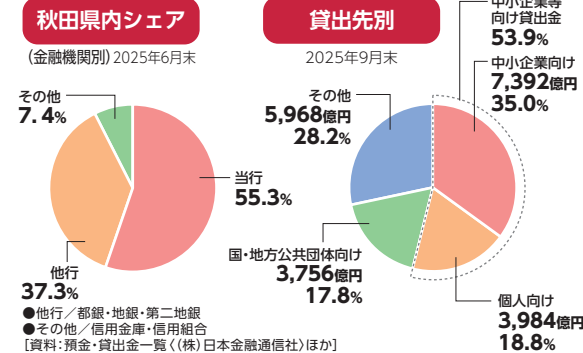
**用語解説**

※「預り資産」  
公共債、投資信託、生命保険など金融商品を総称して「預り資産」と呼んでおります。また、個人年金保険、一時払終身保険を総称して「生命保険」と呼んでおります。



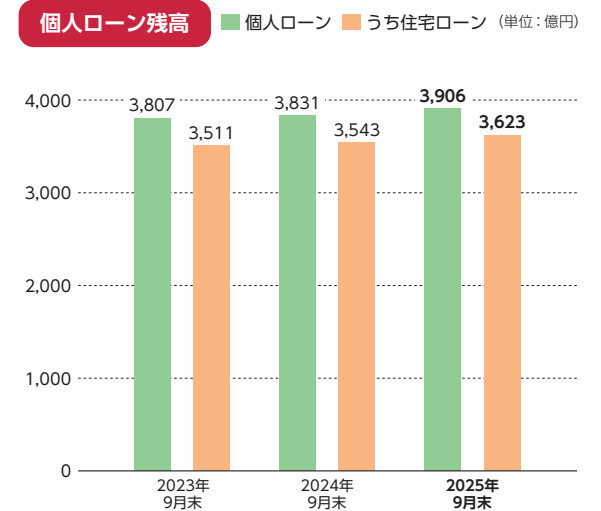
## 貸出金の状況

国・地公体向け貸出は減少したものの個人ローンおよび事業先向け貸出の増加により、前年同期末比1,269億円増加し、**2兆1,102億円**となりました。



## 個人ローンの状況

個人ローンは、住宅ローンの増加により、前年同期末比75億円増加し、**3,906億円**となりました。



# 株式インフォメーション

## 株式の状況

2025年9月30日現在

### ●株式数・株主数

株式数 ●発行可能株式総数 68,745千株  
●発行済株式数 18,093千株 株主数 12,407名

### ●株式の分布状況[所有者別]



### ●大株主

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,624,100株	9.03%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	920,700	5.12
明治安田生命保険相互会社	804,600	4.47
秋田銀行職員持株会	768,412	4.27
日本生命保険相互会社	437,594	2.43
住友生命保険相互会社	344,700	1.91
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	229,451	1.27
JP MORGAN CHASE BANK 385781	225,249	1.25
株式会社十文字チキンカンパニー	224,700	1.24
損害保険ジャパン株式会社	177,200	0.98

(注) 持株比率は自己株式(112,791株)を控除して算出しており、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

## 株価の推移

週単位での値幅



## 株式のご案内

2025年9月30日現在

### ●事業年度

毎年4月1日～3月31日

### ●定時株主総会

毎年6月に開催いたします。

### ●剰余金の配当の基準日

期末配当の基準日は3月31日、中間配当の基準日は9月30日といたします。

### ●基準日

定時株主総会については毎年3月31日を基準日といたします。その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めます。

### ●単元株式数

100株

### ●公告方法

電子公告とします。  
(掲載アドレス <https://www.akita-bank.co.jp/>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、秋田市において発行する秋田魁新報および東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

### ●上場証券取引所

東京証券取引所プライム市場

### ●株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

東京都府中市日鋼町1-1

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

Tel 0120-232-711 (通話料無料: 平日9時～17時)

【同郵送先】

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

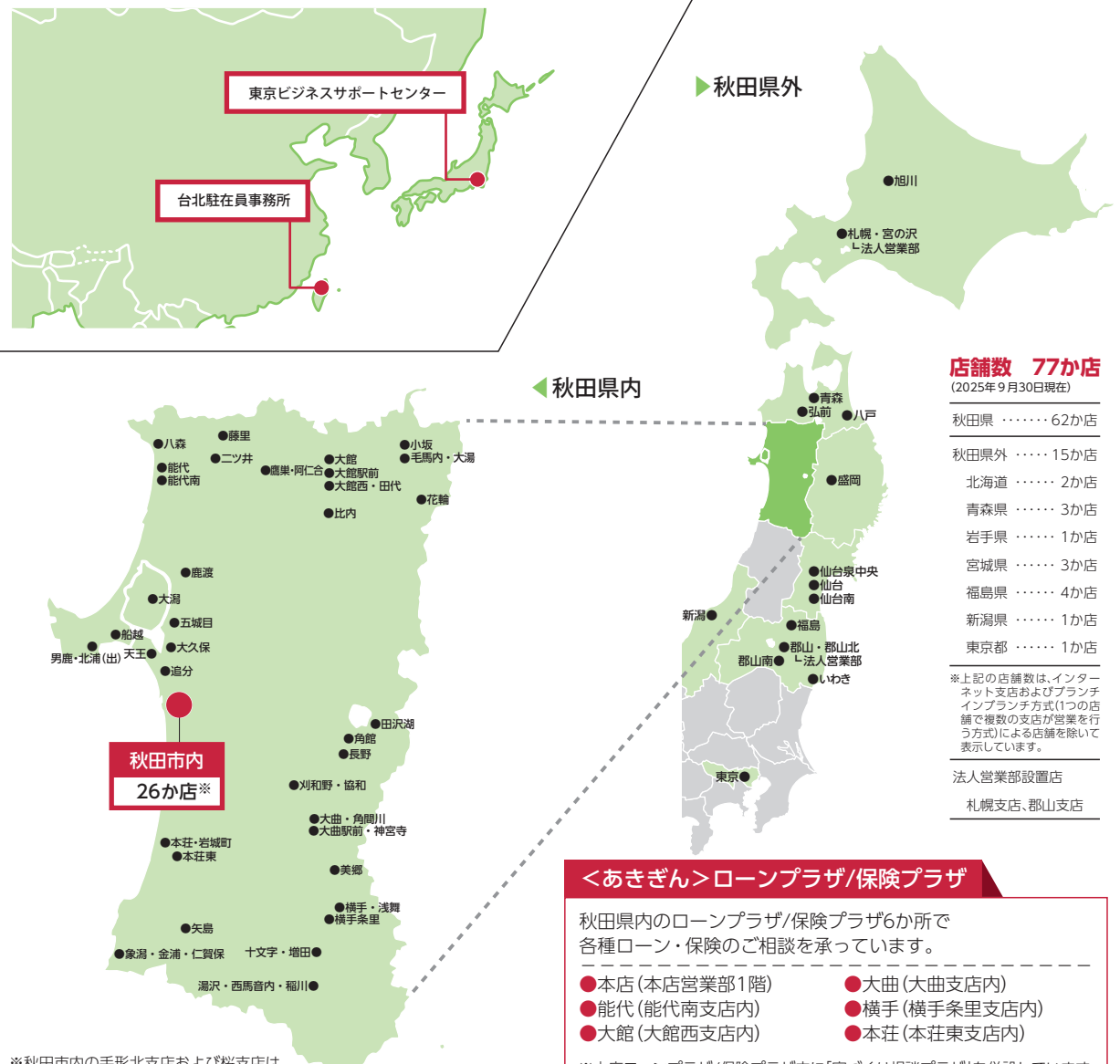
(ご注意)

- 住所変更等、その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社まで、お問い合わせください。
- 特別口座に記録された当行株式に関するお問い合わせ、お手続きにつきましては、上記の特別口座の口座管理機関まで、お問い合わせください。
- 過年度の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店まで、お問い合わせください。

# 店舗ネットワーク

AKITA BANK REPORT 2025

秋田県内外、首都圏(東京ビジネスサポートセンター)および台北(台北駐在員事務所)をつなぐ当行ネットワークにより、お客さまの新たなビジネス機会の創出をサポートします。



※秋田市内の手形北支店および桜支店は、2025年12月22日をもって秋田東中央支店に統合いたします。



# 2025

AKITA BANK  
REPORT



2025年11月発行／株式会社秋田銀行経営企画部広報室  
〒010-8655 秋田市山王三丁目2番1号 TEL018-863-1212

(e-mail) [koho@akita-bank.co.jp](mailto:koho@akita-bank.co.jp)

(URL) <https://www.akita-bank.co.jp/>

秋田銀行 公式SNS

LINE



Facebook



note

